

教育目標:	○健康で たくましく生きる ○みずから学び 創造する ○心豊かに互いを尊重する
めざす学校像:	○学ぶ喜びが実感できる学校 ○ふれあう喜びに満ちた学校 ○夢を育む学校 (校訓) 師弟同行、夢
めざす生徒像:	超スマート社会 Society5.0に向けて、世界の人々の幸福を願い、主体性を持って生きる人
めざす教師像:	授業実践を通して授業力を高め合える教師、適切な指導ができる教師、組織の一員として協力して職務を遂行できる教師

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標 (中間)	努力指標 (最終)	成果指標 (中間)	成果指標 (最終)	今後の課題	学校関係者評価記入欄
確かな学力の伸長	ICTを活用した令和型教育により、学ぶ楽しさ、わかる喜び、学び続けようという意欲を育む授業を工夫し、確かな学力の伸長を図る	●基礎的・基本的な知識及び技能の習得 ●主体的、対話的で深い学びの実現	1人1台のタブレットの活用やICTを活用し、個別最適化された学びを充実することで、誰もが「わかる」「できる」授業を実現する。	96.4%	95.6%	89.2%	89.0%	ICT推進委員会による研修等で、ICTの効果的な活用にある程度の成果が見られた。今後はさらに、(アナログ)+(デジタル)の授業から(アナログ)×(デジタル)な授業へ改善していく必要がある。また1人1台のタブレット型パソコンを使った家庭学習の支援をすすめ、基礎的・基本的な知識及び技能の向上をさらにすすめていくことが課題となる。	◇ ICT 推進委員会の設置から早速、成果が出たということで、すばらしい取組だと思いました。(アナログ)×(デジタル)な授業への改善に期待します。 ◇ 数値から落ち着いて授業に取り組む姿が目に見えます。PCが万能というわけではないので、アナログとバランスよく、また効果的なPCの使い方を探してほしい。 ◇ デジタル教科書モデル校となったことをきっかけに良い結果へ導いていける学校の柔軟さと、生徒の方々に対しても時代にあった活用である改めて実感させていただいた結果だと思いました。またタブレットは表現方法の一つのツールであるとし、今後もパーソナルな主軸を太く伸ばしていただけたらと思います。
			討議、発表など学習形態を工夫し、自分の考えを自分の言葉で表現する場を数多く設ける。	85.7%	91.3%	88.0%	85.2%	自分の言葉で表現する場を今後も授業等で設定していくことが課題。また個別最適な学びと協働的な学びを実現させていく必要がある。	◇ グループ学習等も可能な範囲で進められているようで、発表の機会も増え、生徒にとって良い経験の場が増えたのは嬉しく思いました。 ◇ 主体的・対話的で深い学びとはどのような状況を指すか、学校全体で共有しての「討議や発表などの工夫」であると思われる。ですから、学習形態の工夫、すなわち「対話的」であろうとする「努力指標」は評価できます。しかしながら、「主体的に(討議等に)参加できた」という成果指標は、努力指標の「対話的」な指標に正対していないのではないかと考えられます。すでに「4」の指標を得ているので、次年度は、この点について改善なさるといいのではないかと考えます。 ◇ 友達の意見を聞いて、自分の考えとどうすり合わせるのか、表現のみでなく、友達の意見の取り入れ、深めるとい学習展開をさらに進めてほしい。
豊かな心の育成	人と人とのふれあいを通し、自己肯定感を高め、心豊かに自信をもって生きていく力を育む	●道徳教育の充実 ●生徒の自己肯定感を高め、不登校やいじめ等の課題の解決につなげる。	特別の教科道徳の趣旨を踏まえ、題材や発問を工夫することで「考える道徳」「議論する道徳」の授業を実現する。	84.6%	90.4%	90.1%	84.6%	今後も題材や発問の工夫をさらにしていく。そのためにローテーション道徳をすすめ授業力の向上をさらにすすめていく必要がある。評価についてはさらに生徒のよい点を認め評価できるよう改善していく必要がある。	◇ 都のモデル校となって授業改善に取り組んだことは、高く評価できる点と感じます。また、ローテーション授業の試みも同じ教材を深める機会でもあり、副担任や経験年数の少ない教員がかかわる機会にもなるため今後とも継続されることを期待します。
			一人一人の良さを見つけ、褒め、認め、励まし、伸ばす指導を推進する。	100%	95.6%	75.1%	76.6%	今後も「一人一人の良さを見つけ、褒め、認め、励まし、伸ばす指導」を継続していく必要がある。また自己肯定感の低い生徒については、学校評価アンケートの時期だけでなく、声掛けの中でも生徒の自己評価を確認し、より意識した声掛けを行っていく必要がある。	◇ 個性もあると思いますので、自己評価を高くするのは難しいことと思います。大変だと思いますが、自己評価の低い生徒には、細目に声掛けして自信を持たせるという地道な行動や自信が持てるような機会を与えるしかないかと思えます。 ◇ 一人一人のよさを見つめ認める評価が下がったことは、何が原因であるかを考えたいと思えます。個人面談等では特に低かった生徒に、「何が原因で自己肯定感が低いのか」を尋ね、具体的な言葉が出てきたときに、別の見方で考えさせるなどの声掛けが有効かと思いました。もちろん、お忙しい先生方にご無理は言えませんが、 ◇ 人と人とのふれあい、縦の関係、活動は回復の兆しがあるでしょうか。今後、さらに思いやれる場を意図的に設定し、思いやり、敬う関係性を築く手立てをうっていただければ、自己有用感も高まるのではないかと考えます。 ◇ 授業中をはじめ校内生活全体のなかで積極的に関わりをもつてほしい。 ◇ 「自分には良いところがある」に対して回答者の捉え方によりけり否定的な意味での回答でないのではと考えられる。
夢を育む	将来に対する夢と希望をもちよりよい人生を送ろうとする力を育む	●日頃の生活の中で、夢につながる目標をもち挑戦する姿勢を高める	キャリア教育をはじめ様々な活動を通して、将来設計能力や意思決定能力を高める。	92.9%	90.9%	69.5%	70.9%	中学生にとっては将来の夢というハードルが高い。今後も日頃の身近な目標が、将来の夢につながっていくことを繰り返し伝えていく必要がある。またキャリアパスポートを有効に活用しキャリア教育をすすめていく。	◇ 今年から商店会のイベントも再開するようになるので、商店会としても生徒達に色々な体験をする機会を与えることができるのではないかと考えます。必要あれば、相談してください。 ◇ こちらも「豊かな心の育成」同様に数値が下がっていますが、学年ごとの平均であれば理解できます。1年生の値が低いのが気になります。キャリア教育全体計画の中で、1年生は具体的にどのようなアプローチがあったのでしょうか。将来の夢や目標をもたせることは簡単なことではないので、学年ごとの目標を意識させることができるように願います。 ◇ 夢は遠いので、身近な目標でよいと思います。職業でなくても、こんなこと勉強したい、こんな自分になりたいとか、自分を肯定できる人であってほしいです。 ◇ キャリア、生き方など社会の先輩とのオンラインでの対話など積極的に道徳、進路、総合で扱っていくとよい。
特色ある教育活動の推進	特色ある教育活動を推進し、地域から信頼される学校を創造する	●特別支援教育の充実 ●校訓「師弟同行」のもと生徒とともに歩み、生徒の学校居心地感を高める。	学校行事による共同学習を工夫し、通常の学級と特別支援学級の交流を推進する。	88.9%	86.9%	70.2%	75.1%	学期の反省の学年集会では、特別支援学級の教員も全体への話をすることが生徒にとってお互いを理解するために効果があるので、今後は積極的にすすめていく。	◇ 特別支援教育の充実に関しては、この文面だと特別支援学級との交流及び共同に関するものです。今後は、配慮が必要な生徒の支援といった意味での充実も望みます。表にはだせないですが、小学校からの個別指導計画や情緒障がい学級担任からの助言をもとに支援を充実させる等があると思われまます。 ◇ 作品や学習成果を二中生として同じ場所・時間で展示し共有することも大切。 ◇ 特別支援教育について、努力指標に対して成果指標が反映されていないのが気になりました。これは教師側の感覚と生徒側の感覚にズレがあるのではないかと見て取れます。
			生徒の活動場所に常に身を置き、小さな変化も見逃さない指導体制を充実する。	100%	100%	86.1%	87.4%	1年生については中学校生活への慣れもポイント上昇の要因とも考えられるが、どのようなアプローチが有効だったか次年度に向け検証していく必要がある。また13%弱の生徒が学校居心地感について否定的な回答なので、それが前期、後期ともになのか、後期になってなのか細かな分析を行っていく必要がある。	◇ 現状、評価としては高いので問題ないと思います。より良くする為には、学校評価アンケートでの分析が可能な細かなデータ収集が必要と感じました。 ◇ 「どのようなアプローチが有効であったか検証する必要がある」との改善策をぜひ実現していただきたいと感じます。2年生のポイントが下がるのは、発達段階としてわかります。注目すべきは3年生の上昇です。これこそ、二中の先生方のご努力によるものと考えます。 ◇ 先生が一人一人を大切に、声を日常的にかけている様子がうかがえます。子供たちの数字に表れているようです。 ◇ コロナ禍の影響も大きいですが、あいさつについてももう少しできるとよい。